

## 岐阜県・石川県の調査報告書

報告書記入者名（ 藤島 貴光 ）

<b>調査名</b>	蕎麦及び農産加工品(コメ含む)を核とした中山間地域農業戦略の調査		
<b>実施年月日</b>	平成21年9月 24日(木曜日)	13時00分 ~ 17時00分	
	~ 平成21年9月25日(金曜日)	14時30分 ~ 16時30分	
<b>調査員氏名</b>	藤島 貴光		
<p>調査対象先の概要（資料等があれば添付のこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名称：ふるさと郡上市白鳥協議会 羽咋市1. 5次産業振興室</li> <li>・住所：岐阜県郡上市白鳥町 石川県羽咋市神子原町</li>   <li>・面談者または調査対象（ターゲット）</li> <li>「ふるさと郡上市白鳥協議会 会長 鷺見 与三衛」 「道の駅管理運営協会 山下裕子」</li> <li>「そば作りアドバイザー 高野誠一」「羽咋市1. 5次産業振興室」</li> </ul>			

### 調査事項と調査の経過概要

9月24日(木) 14:00~17:00

到着後、そば畑や長滝神社を視察し、白山文化について説明を受けた。その後、奥美濃しろとり物産センターで、岐阜県のふるさと郡上市白鳥協議会の取組について、ふるさと郡上市白鳥協議会の会長、鷺見与三衛さんより説明があった。恵まれた自然・文化、匠の技を使い地域資源を活かすために「ふるさと郡上市白鳥協議会」を立ち上げた。この協議会は郡上市・商工会・JA・農林事務所など地域住民が組織しており、地域資源の活用を核とした活動を行っている。白鳥町の伝統的作物を調査した。まず「柿と梅」の特産品開発に取り組んだ。子供達にも小学校で干し柿作りを指導している。5年、10年先を考え子供達に何を残していけるのかを提案していく。作戦を立て戦略は10年計画で実行している。講演会の開催やマスコミへの情報提供なども積極的に行っている。

続いて、ふるさと郡上市白鳥協議会、道の駅管理運営協会 山下裕子さんから白鳥町農業婦人クラブ運営の「そば工房源助さん」の現在までの経過の説明を受けた。補助事業で建設していただいた施設を婦人クラブで出資金を出し合い、手作りの店を開店した。製粉機やそば打ちセットなどはクラブ所有のものという。すべて地元で採れたもののみ使用し、そば打ち体験や加工食品を作っている。売上は順調に伸びている。その中でも柿は「延年蜂屋柿」として商標登録し、正月には長滝神社での祈禱料込みで高く販売しても即売されるくらいになった。今後も加工品や新商品の開発をして行きたい。

9月25日(金) 14:30~16:30

翌日は、石川県羽咋市に移動し、神子原町農産物直売所の会議室をお借して、そば作りをアドバイザーの高野誠一さんから講義を受けた。そばの歴史から説明していただいた。そばを売るのなら、中途半端な気持ちではやらない方がいい。全国にそば通がいて開店したと聞きつけては、お店に行き、そば通で情報を公開する。悪い評判はすぐ広まり、お店がつぶれてしまうこともある。本気ならば1年ほど修行に出るようでないとな繁盛店は作れない。という内容の講義をいただきました。続いて、羽咋市1. 5次産業振興室の担当の方より現在の取り組みについて話がありました。羽咋市神子原地区は高齢化率57%の限界集落であり、豪雪地帯である。農家も高齢化しており減る一方だった。そこで市は1.5次産業を立ち上げ行政が指導して町の衰退を止めようとした。空き農家を家賃月額2万円で貸し出すことにし、他県から20.30代の人に住んでもらい、農家をしてもらう。結婚して子供が生まれれば高齢化率の引き下げにもなる。申し込みも多く実際に移り住んでいる。女子大学生にも呼びかけ

夏場は泊まりに来てもらい、仮想の親子になってもらい、農業をしてもらおう。とにかく若者を町に呼び込むように仕向けている。そして、移り住んだ人の中には、農家の建物の雰囲気そのまま残し、農家レストラン・カフェを経営している。看板も目立たなくして営業しているが、今ではお客さんが探してまでも来ていて、収入が1千万円を超える。コーヒーやランチもしているが、物を売るのではない空間を提供している。また、米作りもJAに出荷ではなく、市で米を売るように戦略を考えた。食味計は結構誤差が出るので、衛星で米を分析した。たんぱく質の量や残留農薬など米のうまさがわかるという。このデータをもとに農家を指導をする。いいものしか売らない、農家にやる気を出させる。品質のいい米は高く売る。米のブランド化を統一する。生産者の都合ではなく消費者の心理分析をし、高級志向の消費者をターゲットとした。また加工品として、いい米だけを使った日本酒を作り、外国人記者クラブに持ち込み記者会見をした。一切手抜きをしない商品を作ったので高い評価を受けた。ソムリエの田崎真也にもすばらしい日本酒と評価され、JALのエグゼクティブクラスの指定酒になった。「日本で一番高い酒」としてうまくマスコミを利用して、販路を拡大した。将来の農業を熱く語る集落作りを今後目指していく。という講義を受けました。併設されたライスセンターを見学した後、農家カフェ「神音（しおん）」を視察した。農家をそのまま利用して、雰囲気がとてもいい農家カフェでした。山道の奥で、平日の午後でしたがお客さんもいらっしゃいました。



郡上市のそば畑



ふるさと郡上市協議会の講演会



石川県羽咋市の取組の説明



農家レストラン「神音」の風景